東証プライム　証券コード 5957

2026年12月期　第3四半期
決算補足説明資料

2026年11月12日
日東精工株式会社

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together

目次

1. 2026年12月期第3四半期　業績概要

2. セグメント別業績概要

3. 2026年12月期　業績予想

4. 参考資料

1．2026年12月期第3四半期 業績概要

業績ハイライト

（単位：百万円／%）

	FY2025/3Q		FY2026/3Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	**35,998**	**100.0**	**38,070**	**100.0**	**2,071**	**5.8**
売上原価	27,400	76.1	28,838	75.7	1,437	5.2
売上総利益	**8,597**	**23.9**	**9,232**	**24.3**	**634**	**7.4**
販売管理費	6,381	17.7	6,409	16.8	28	0.4
営業利益	**2,215**	**6.2**	**2,822**	**7.4**	**606**	**27.4**
経常利益	**2,127**	**5.9**	**2,803**	**7.4**	**675**	**31.7**
親会社株主に帰属する当期純利益	**1,283**	**3.6**	**1,791**	**4.7**	**508**	**39.7**
一株当たり当期純利益（円）	35.39		49.35			

決算のポイント

売上高
+5.8%

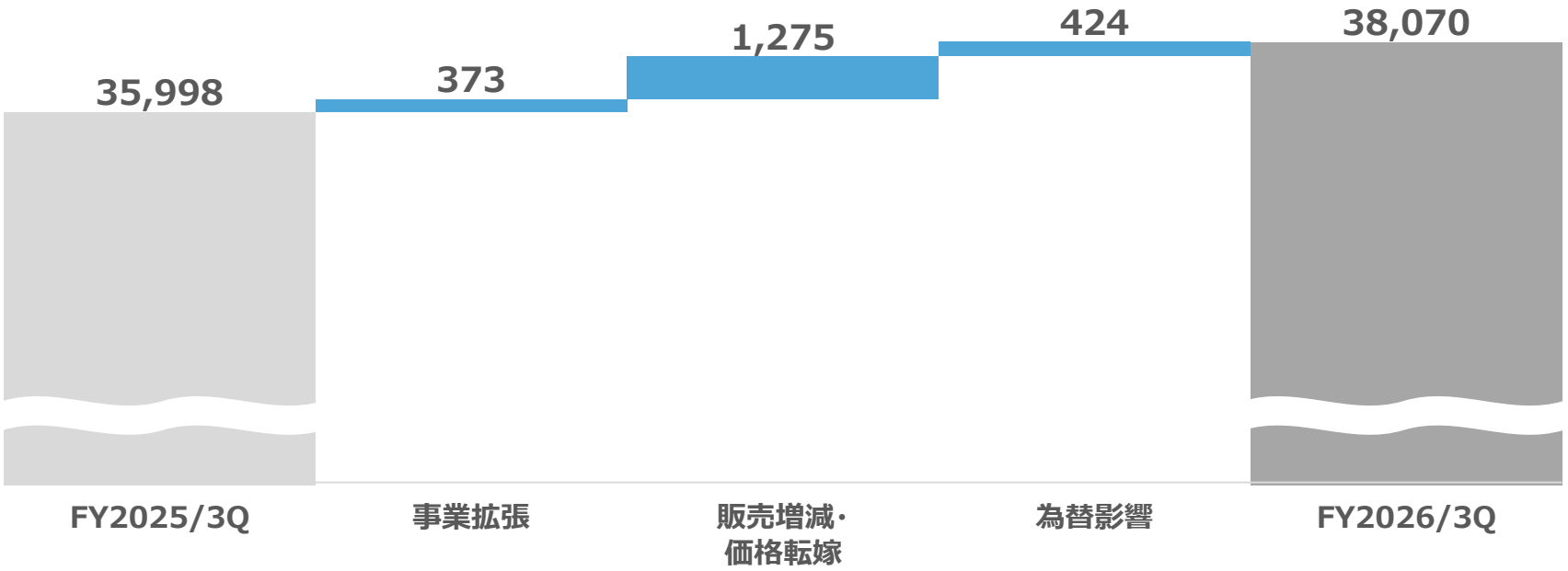
- ファスナー事業は自動車向けにおいて中国・インドでの売上好調に加え、国内でもADAS（先進運転支援システム）関連が好調。ゲーム機向けは生産調整で減少したものの、東南アジアの家電向けが中国からの生産移管もあり好調に推移。
- 産機事業は主力の自動車で国内はEV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響で伸び悩むも、海外で米国でのHV販売増加などにより設備投資が好調。データセンター関連の増加、汎用エンジン用大型設備の売上もあり増収。
- 制御事業は環境分野におけるPFAS対応製品の初動販売が落ち着いた影響があったが、エネルギー分野で石油化学向けの大型案件があり増収。

営業利益
+27.4%

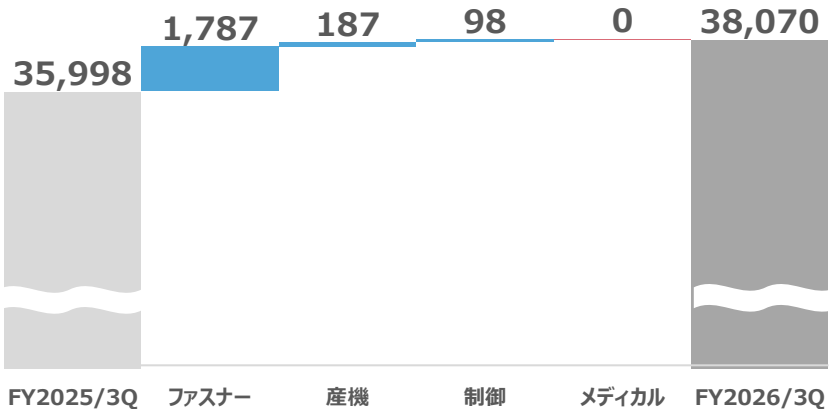
- 売上高増加および自動車・データセンター向け高付加価値製品の増加に加え、前期はM&A関連費を302百万円計上したため、前年同期比で販管費が減少し増益。

売上高　増減要因

（単位：百万円）



セグメント別売上高増減



事業拡張

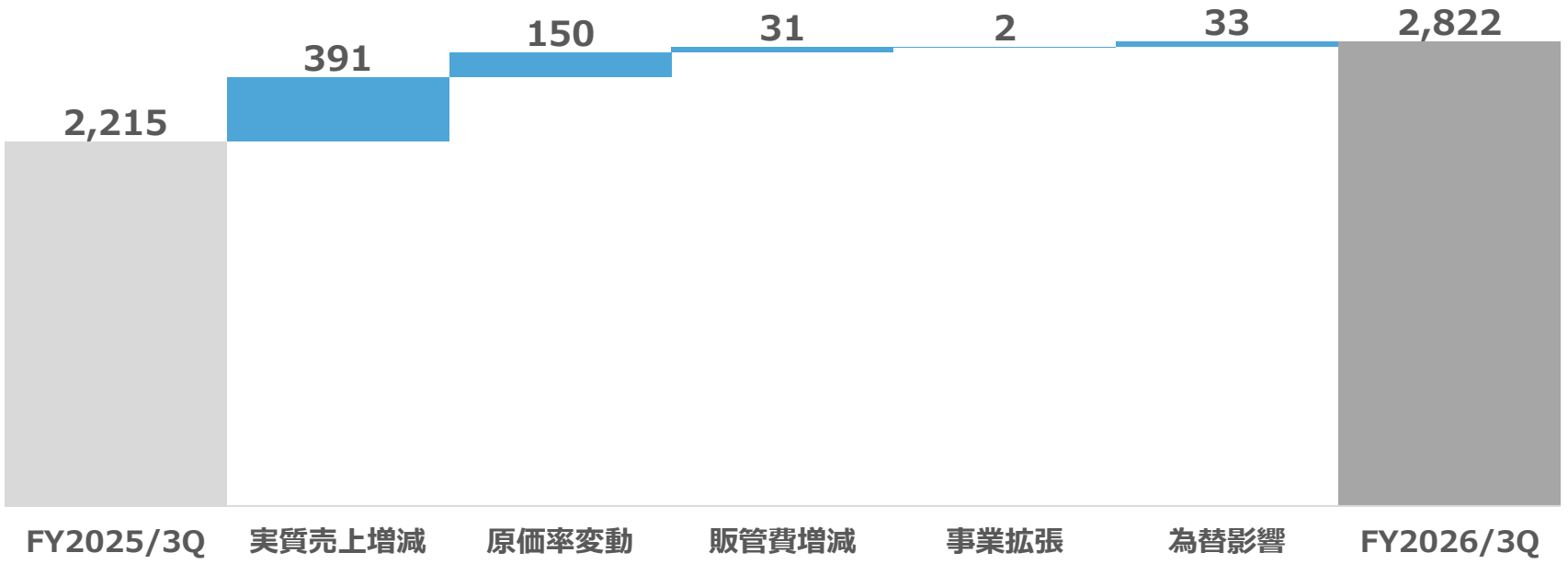
インドでの自動車・二輪車向け売上が貢献。

販売増減

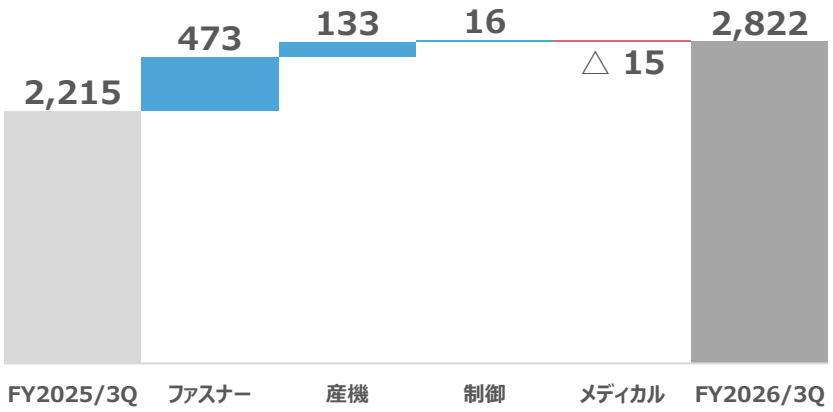
中国の自動車向け、国内自動車向けのCASE関連、東南アジアの家電向けのファスナー製品が好調。制御の石油化学向け大型案件も売上に貢献。
データセンター向けなど生成AI関連も複数セグメントで需要拡大。

営業利益　増減要因

（単位：百万円）



セグメント別営業利益増減



原価率変動要因

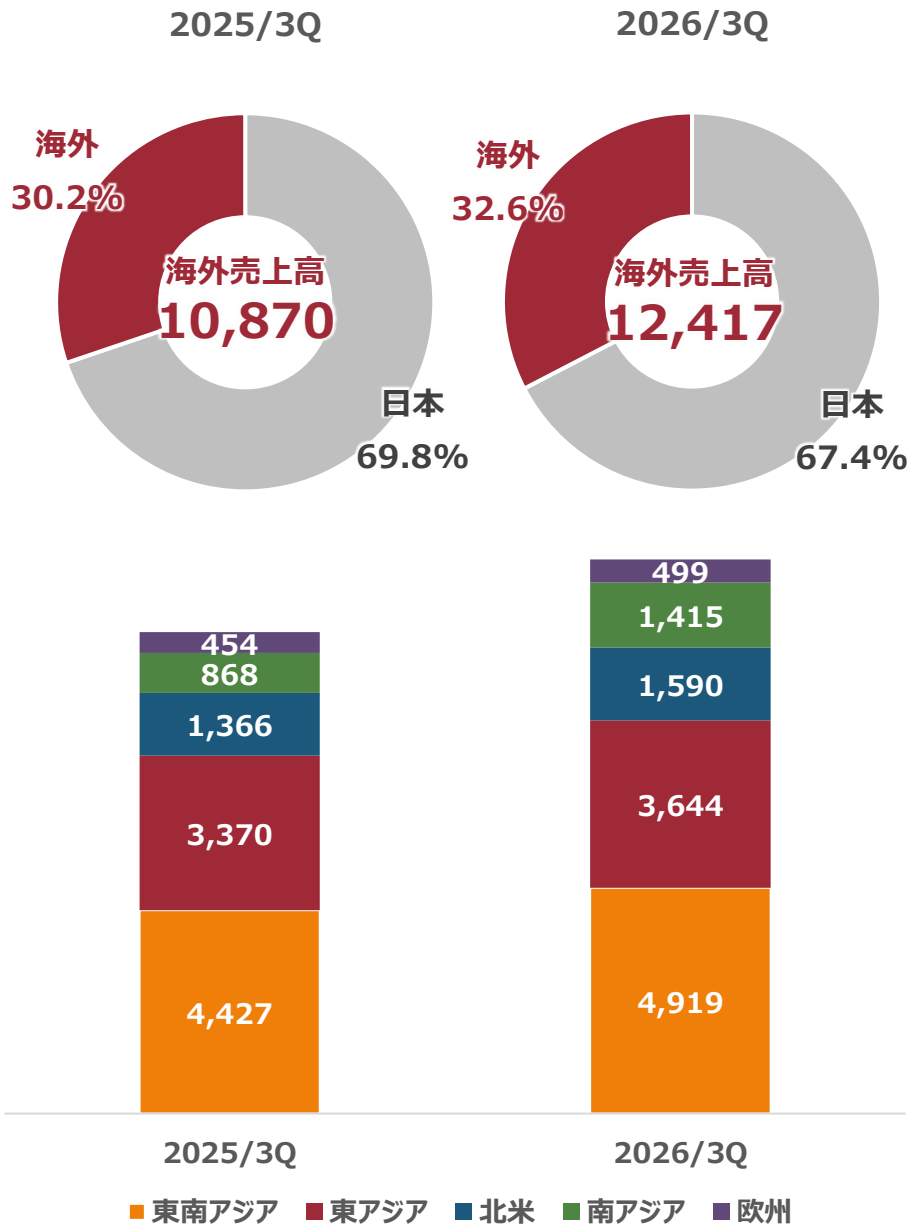
自動車向けを中心とした高付加価値のファスナー製品が好調。
また、産機事業において米国での自動ねじ締め機の販売が好調で、利益率が改善した。

販管費変動要因

海外子会社監査に伴う費用増加、株主優待費用計上、賃上げによる労務費増加などがあったが、前期にM&A関連費用を計上した影響で全体では減少。

海外地域別売上高

（単位：百万円）



FY2026/3Qの概況

- 全地域において前年同期比増。特に南アジア（インド）と東南アジアが伸長。
- 海外全体で15.4億円増。うち、為替による影響で4.2億円増。

欧州 +10.0%
石油精製、石油化学向けの元素計が好調。

南アジア +63.0%
インド向け拡販で増加。

北米 +16.4%
米国で自動車向けの自動ねじ締め機が好調。

東アジア +8.1%
中国で自動車向けファスナー製品が好調。

東南アジア +11.1%
マレーシアで家電向けのファスナー製品が好調。

貸借対照表

（単位：百万円／%）

	FY2025/4Q		FY2026/3Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産合計	**35,850**	**62.2**	**34,996**	**62.0**	**△ 853**	**△ 2.4**
現金及び預金	10,493	18.2	10,114	17.9	△ 379	△ 3.6
売上債権	12,477	21.6	11,298	20.0	△ 1,179	△ 9.5
棚卸資産	11,753	20.4	12,533	22.2	780	6.6
固定資産合計	**21,822**	**37.8**	**21,449**	**38.0**	**△ 373**	**△ 1.7**
有形固定資産	15,661	27.2	15,323	27.1	△ 338	△ 2.2
無形固定資産	1,082	1.9	958	1.7	△ 124	△ 11.5
投資その他の資産	5,078	8.8	5,166	9.2	88	1.7
資産合計	**57,673**	**100.0**	**56,445**	**100.0**	**△ 1,227**	**△ 2.1**
流動負債合計	**11,833**	**20.5**	**10,110**	**17.9**	**△ 1,722**	**△ 14.6**
仕入債務	7,101	12.3	5,979	10.6	△ 1,121	△ 15.8
短期借入金	1,714	3.0	1,216	2.2	△ 498	△ 29.1
固定負債合計	**4,837**	**8.4**	**4,578**	**8.1**	**△ 258**	**△ 5.3**
長期借入金	962	1.7	631	1.1	△ 331	△ 34.4
負債合計	**16,670**	**28.9**	**14,689**	**26.0**	**△ 1,981**	**△ 11.9**
資本金	3,522	6.1	3,522	6.2	–	–
資本･利益剰余金	32,208	55.8	33,114	58.7	905	2.8
自己株式	△ 1,746	△ 3.0	△ 1,752	△ 3.1	△ 5	–
純資産合計	**41,002**	**71.1**	**41,756**	**74.0**	**754**	**1.8**

２．セグメント別業績概要

セグメント別売上高・営業利益

NITTOSEIKO

（単位：百万円／%）

		FY2025/3Q 金額	FY2026/3Q 金額	前年同期比 金額	前年同期比 増減率
ファスナー事業	売上高	26,872	28,659	1,787	6.7
	営業利益	1,445	1,918	473	32.7
	利益率	5.4	6.7	–	1.3
産機事業	売上高	4,141	4,328	187	4.5
	営業利益	527	660	133	25.2
	利益率	12.7	15.3	–	2.5
制御事業	売上高	4,906	5,004	98	2.0
	営業利益	332	349	16	4.9
	利益率	6.8	7.0	–	0.2
メディカル事業	売上高	78	77	0	△ 1.0
	営業利益	△ 90	△ 106	△ 15	–
	利益率	–	–	–	–

セグメント別業績概要　ファスナー事業

（単位：百万円／%）

売上高　**前年同期比で増収**

自動車業界において、中国・インドでの売上が業績に貢献。前年大幅増のゲーム機向けは生産調整で減少したものの、東南アジアの家電向け需要、国内を中心とする自動車のCASE関連需要が増加。

営業利益　**前年同期比で増益**

前期にM&A関連費用を計上したため前年同期比で販管費が減少。自動車中心に高付加価値品が好調で利益貢献。加えて、製造コスト低減・利益率向上の改革効果が表出。

新製品情報

11月に組立工程の課題である「噛み込み発生」が劇的に低減するねじ「AGpoint」を発売。

	FY2025/3Q	FY2026/3Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	**26,872**	**28,659**	**1,787**	**6.7**	
自動車	10,792	12,558	1,766	16.4	中国、インドでの売上が業績に貢献。国内中心にADAS（先進運転支援システム）向けのオリジナル品が引き続き好調で大幅増。軽量化・薄板化貢献の「JOISTUD」も引き合い活発。
住宅・建築	5,268	4,938	△ 330	△ 6.3	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などが続き、前年同期比で減少。
電機・電子部品	3,523	4,013	490	13.9	中国からの生産移管でマレーシア中心に東南アジアで好調。
雑貨	2,207	1,874	△ 332	△ 15.1	前年好調のゲーム機向け精密ねじは生産調整で減少。
精密機器	1,187	1,288	100	8.5	国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。コンパクトデジカメの再ブームによりプレス品も好調。
ＩＴ・情報機器	1,275	1,231	△ 44	△ 3.5	マレーシアでOA機器向けがやや減少。中国からの生産移管は引き続き進行。
エネルギー関連	352	533	180	51.3	生成AI需要によりデータセンター向けに「CPグリップ」が好調。
その他	2,265	2,220	△ 44	△ 2.0	
営業利益	**1,445**	**1,918**	**473**	**32.7**	

セグメント別業績概要　産機事業

（単位：百万円／%）

売上高　**前年同期比で増収**

主力の自動車業界では、国内はEV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響で伸び悩んだものの、海外では米国でのHV販売増加などにより設備投資が好調。データセンター関連の好調、汎用エンジン用大型設備の売上もあり、前年同期比で増収。

営業利益　**前年同期比で増益**

資材高騰の影響を受ける中、発注方式の見直しによるコスト削減に加え、作業時間の見える化など作業方法の改善など工数削減を推進。前年同期比で増益。

新製品情報

11月に次世代スタンダード新型電流制御ナットランナ「KX-R1シリーズ」を発売。

	FY2025/3Q	FY2026/3Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	**4,141**	**4,328**	**187**	**4.5**	
自動車	2,573	2,610	36	1.4	国内ではEV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響を受け伸び悩んだものの、海外では米国でHV販売増加などにより設備投資が好調に推移し、全体では増加。
電機・電子部品	476	497	21	4.4	サプライチェーン全体の在庫調整や主要ユーザー先における設備投資抑制が続くものの、半導体関連向けの投資が活発で増加。
エネルギー関連	386	249	△ 136	△ 35.2	電力メーター関連の大型設備投資が一段落し減少。ガスメーター関連の老朽化対応は継続を見込む。
ＩＴ・情報機器	39	217	177	442.9	国内外においてAI需要拡大に伴いデータセンター関連が好調。
遊技機	131	116	△ 15	△ 11.4	更新用の大型改造工事などがあり横ばい。
住宅・建築	73	99	26	35.6	建築関連人材の不足に伴う省人化需要が増加。
その他	460	538	78	16.9	汎用エンジン用大型設備、老朽化による設備更新需要により増。
営業利益	**527**	**660**	**133**	**25.2**	

セグメント別業績概要　制御事業

（単位：百万円／%）

売上高　**前年同期比で増収**

エネルギー分野で石油化学向けの大型案件があり大幅に増加。また、医薬向けシステム品売上で増加。一方、環境分野におけるPFAS対応製品の初動販売が落ち着いた影響もあったが、全体では増収。

営業利益　**前年同期比で増益**

原価率の高い品目を中心に追加の価格改定を行い、利益が改善。その他、デザインレビューによる設計改善、調達条件の見直しによる原価低減を実施。

新製品情報

11月に質量流量計「クリーンフロー」に小口径モデルを追加。
本年度末までに水分測定装置、自動滴定装置の操作性を向上するアプリケーションソフトウェア「Mult-ease（マルチーズ）」を開発完了予定。

	FY2025/3Q	FY2026/3Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	**4,906**	**5,004**	**98**	**2.0**	
化学・薬品	1,161	1,111	△ 50	△ 4.4	1Qでは前年に受注残を解消した影響で前年同期比で減少したが、2Qでは分析装置の更新需要が増加し全体では減少。
エネルギー関連	610	937	327	53.6	インドの大手石油化学向けの大型案件があり、元素計の売上が大幅に増加。
環境	543	383	△ 159	△ 29.4	PFAS関連装置は海外向けで売上を確保したものの、PFAS規制に対応する2024年発売の有機フッ素分析装置の初動販売が落ち着き前年同期比で減少。
電機・電子部品	356	328	△ 27	△ 7.7	電池向け水分計、抵抗率計の需要継続も、前年同期比では減。生成AI需要でデータセンター向け流量計の受注は好調。
住宅・建築	313	311	△ 2	△ 0.7	前年3Qより地盤調査機「ジオカルテⅣ」の更新需要を一定数確保し横ばい。新製品「ジオジャッジ」拡販中。
造船	297	289	△ 8	△ 2.8	造船業界の好調により流量計市場も拡大傾向が続く見通し。
自動車	289	279	△ 9	△ 3.3	自動化省人化、研究開発への設備投資が活発。電子部品調達難の影響での納期遅延で納入遅延が発生し、やや計画に遅れ。
その他	1,333	1,363	30	2.3	医薬向けシステム品売上で増加。
営業利益	**332**	**349**	**16**	**4.9**	

セグメント別業績概要　メディカル事業

（単位：百万円／%）

	FY2025/3Q	FY2026/3Q	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	**78**	**77**	**0**	**△ 1.0**
医療	78	77	0	△ 1.0
その他	–	–	–	–
営業利益	**△ 90**	**△ 106**	**△ 15**	**–**

業績	戦略的な市場対応を目的とした製品ポートフォリオの再編を進めるとともに、安定的な売上基盤の構築を推進。
医療用照明器「FREELED」	コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。
医療用生体内溶解性高純度マグネシウム	2023年の国内特許、2024年の米国特許取得に続き、2026年6月にタイ特許取得。他の主要5ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。引き続き、早期製品化に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。
その他	2025年には医療機器の品質規格であるISO13485を取得。医療機器開発や製造販売業許可による製造受託案件の獲得に向けた生産体制の構築を進める。

3．2026年12月期業績予想

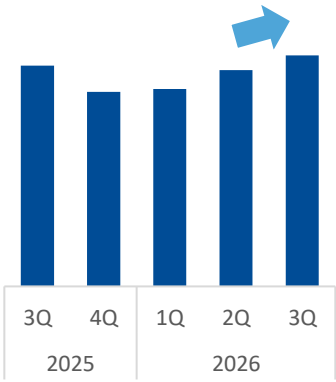
本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。
実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

連結業績予想

（単位：百万円／%）

	FY2025		FY2026（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	50,238	100.0	52,000	100.0	1,761	3.5
営業利益	3,431	6.8	3,800	7.3	368	10.7
経常利益	3,409	6.8	3,800	7.3	390	11.5
親会社株主に帰属する当期純利益	2,152	4.3	2,300	4.4	147	6.9
一株当たり当期純利益（円）	59.34	-	63.29	-	-	-

注残の推移



予想のポイント　重点市場の需要を取り込み、収益管理を徹底することで通期業績予想の達成を目指す

売上高

各事業領域の需要動向を踏まえ、重点市場・重点製品を中心に販売拡大を進める。

ファスナー事業：国内外の自動車分野で輸出向け需要が引き続き堅調に推移する見通しであり、ADAS向けをはじめとする高付加価値製品の販売拡大を進める。ゲーム機向け精密ねじは生産調整局面の影響を受けるものの、データセンター向け「CPグリップ」は堅調な需要が継続する見込み。また、インド現地法人は二輪関連を中心に好調な受注環境が継続しており、重点顧客への拡販活動を強化する。

産機事業：標準機の受注は引き続き堅調に推移しており、年内売上計上に向けた生産対応を進める。自動車関連需要の変動に対しては、データセンター、半導体向けなど非自動車分野の拡販により補完を図る。加えて、インド市場での需要取り込みや海外販売体制の強化を通じて、さらなる受注拡大を目指す。

制御事業：分析機器分野では水分計や環境関連製品を中心に堅調な需要が継続する見込み。流量計分野では造船向け需要が売上を牽引するほか、一部ステンレス製品の納期正常化を進める。また、質量流量計「クリーンフロー」の小口径モデルを11月より受注開始し、販売拡大による売上寄与を図る。

利益

ファスナー事業：ADAS向け製品やデータセンター向け製品など高付加価値製品の販売拡大を進めるとともに、価格適正化や費用抑制、継続的な改善活動により収益力の向上を図る。

産機事業：標準機の拡販および受注残案件の確実な売上化を推進するとともに、生産効率の向上や固定費管理の徹底により収益性の向上を目指す。

制御事業：生産工程の自動化による原価低減や採算管理の強化を進めるとともに、新製品の拡販および成長分野向け需要の取り込みにより利益の拡大を図る。

セグメント別市場動向と取り組み状況

NITTOSEIKO

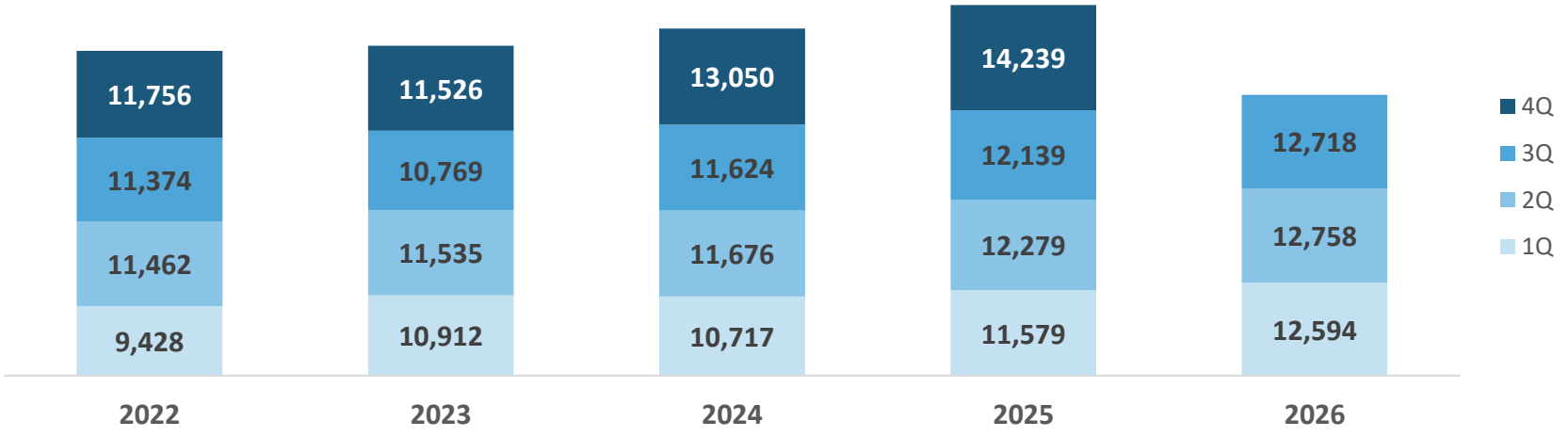
事業		主な市場動向	取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移
ファスナー	自動車	国内を中心に、電動化によるバッテリー・インバーター向けニーズ、車両の軽量化・薄板化ニーズなどCASE関連需要は継続しているものの、EV関連の生産計画の見直し、アジアでの燃料価格高騰に伴う一部車種の需要減が懸念される。	• 収益改善活動として新市場拡販プロジェクトを立ち上げ活動を強化 • 代理店との拡販プロジェクトの推進 • 工場再編による工場間輸送の削減、調達先の見直し、金型耐久度アップなどの製造コスト低減・利益率改善	
	住宅・建築	建築資材費・土地価格・人件費高騰、金利上昇などにより厳しい状況が継続する見込み。		
	雑貨	ゲーム機は昨年のピークを過ぎ、需要は落ち着いている。		
産機	自動車	EV車向け設備投資計画見直しなどの影響で不透明な状況が続く。北南米向けを中心に海外の設備投資は好調の見通し。	• ターゲット先へのデモ実演、プライベート展示会の開催などを強化 • データセンター関連への営業強化・完成設備提案の実施 • 発注方式の見直しなどコスト削減の取組みを継続	
	電機・電子	半導体関連向けの需要が旺盛であり、当社への案件増加も見込む。		
	エネルギー関連	電力メーター関連の大型設備投資は一段落したが、ガスメーター関連の老朽化対応は継続を見込む。		
制御	エネルギー関連	石油精製、石油化学向けに元素計、自動試料燃焼装置の需要が継続見込み。国内ではSAFなど代替燃料向けの元素計需要拡大の見通し。	• クレーン転倒リスク評価BCT試験装置「ジオジャッジ」の拡販 • 技術者の販売同行、セミナー出展による訴求力向上と受注率UP • システム製品の統廃合および成長製品の受注拡大と適正利益確保 • 有機溶剤リサイクル装置・分離膜管の上市	
	電機・電子	EV、電池用を含む電子材料向けが好調に推移する見込み。		
	環境	PFAS関連は欧州で需要が継続。国内は微量ふっ素測定ニーズが増加する見込み。2025年に公定法に採用された小型蒸留装置の国内引き合いも増加中。		
メディカル	開発計画	2024年に米国、2026年6月にタイで「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を取得。他の国でも順次取得予定。同材料の早期製品化に向けて準備を進めると同時に、様々な医療機器領域への適用拡大について探求を進める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。		

４．参考資料

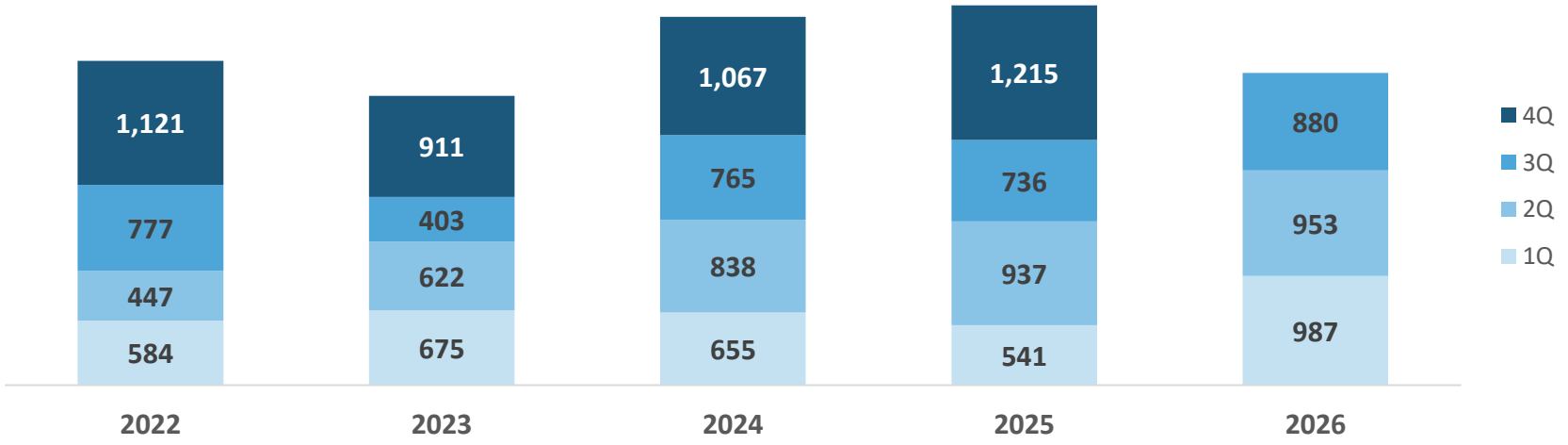
四半期ごとの業績推移

（単位：百万円）

売上高



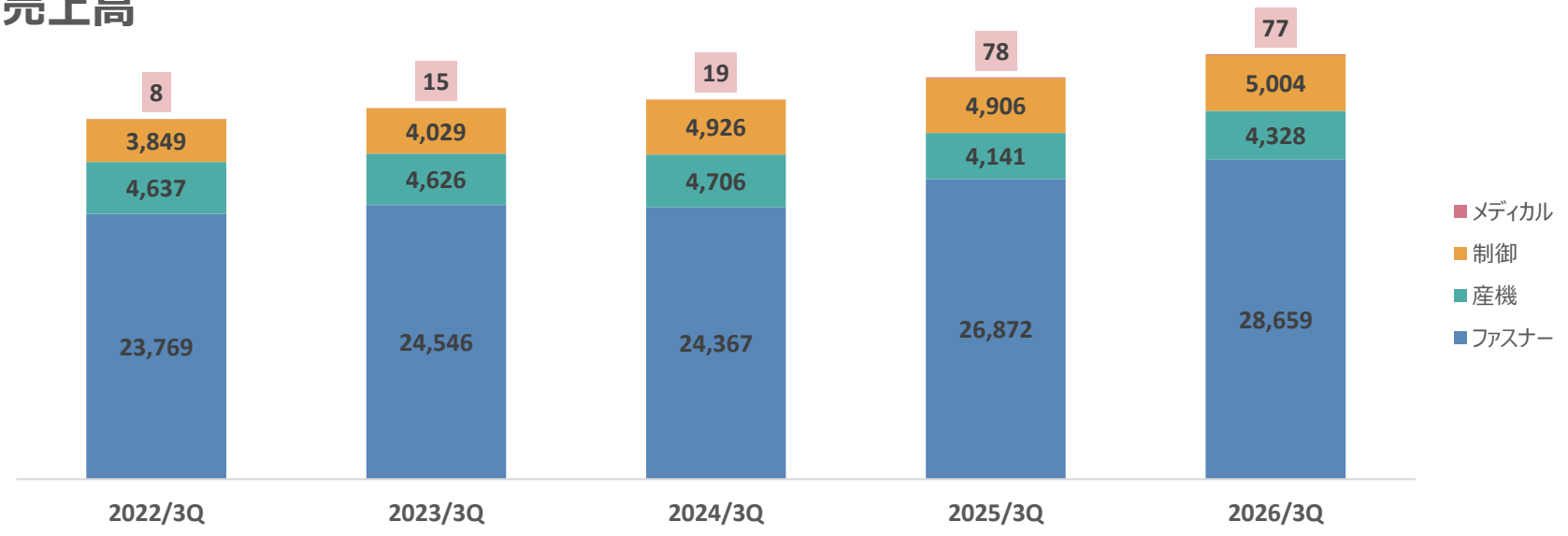
営業利益



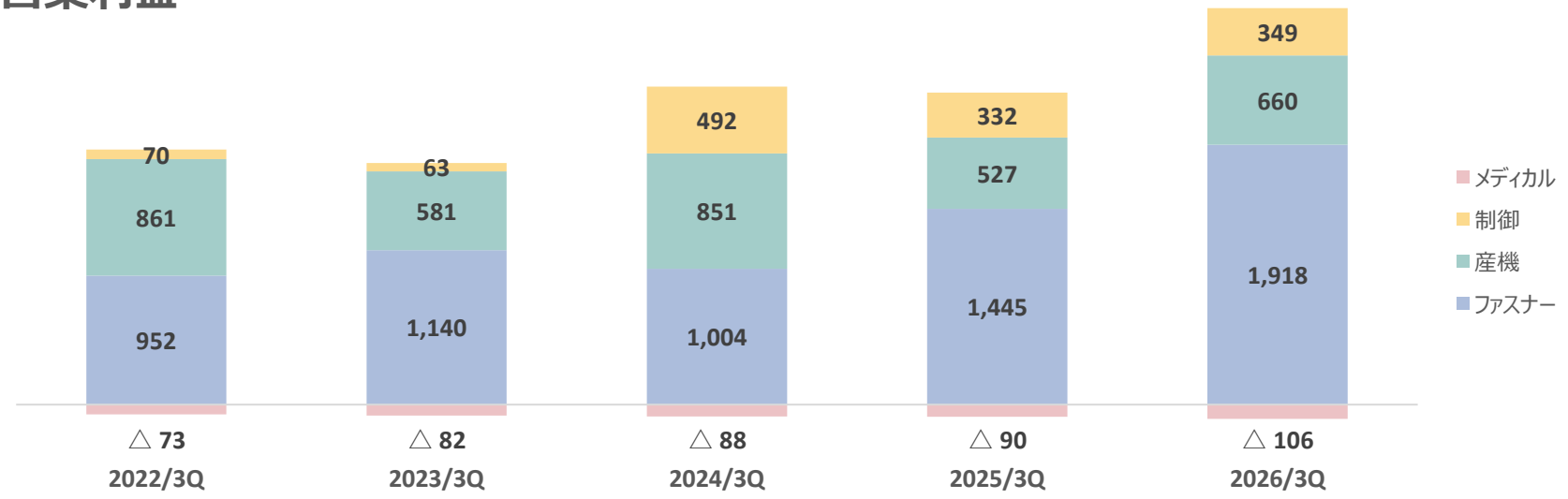
セグメント別業績の同期比較

（単位：百万円）

売上高



営業利益



当社Webサイト　IRページ

https://www.nittoseiko.co.jp/ir.html



IR　お問い合わせ窓口

日東精工株式会社　ESG･IR戦略室
電話：0773-42-3739
E-mail：ir@nittoseiko.com

機関投資家様　個別取材窓口

Shared Research

https://sharedresearch.jp/ja/companies/5957

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。
実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品･サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together